

「令和4年度 乳児保育研修会」報告書

- 【期 日】令和4年9月2日（金）
【会 場】ロイヤルチェスター佐賀
【主 催】佐賀県保育会
【参加者】134名（集合24名・オンライン110名）
【内 容】研修1 12：30～16：30

「乳児保育の課題と展望」

講師 大方 美香 氏（大阪総合保育大学 学長・教授 博士（教育学））



研修1 「乳児保育の課題と展望」

講師 大方 美香 氏（大阪総合保育大学 学長・教授 博士（教育学））



◎乳児保育 0・1・2歳で何が育ちつつあるのか

私たち保育士は単に預かり保育しているわけではない。

脳の中のネットワークが出来る時期

人生においてとても大事な時期に関わる保育者は大切な存在



自尊心を持ち、私たち保育士の仕事に誇りを持ってほしい

◎基本的信頼関係の形成

- ・0歳から2歳児までの時期には、保護者や保育者など特定の大人との間で愛着関係が形成され、食事や睡眠などの生活リズムも形成されていく
- ・また、この時期は、周囲の人の物、自然など様々な環境との関わりの中で、自己という感覚や、自我を育てていく時期でもある

◎0～2歳児の理解

- ・この時期は他者との関わりを初めて持ち、その中で自我が形成されるなど、子どもの心身の発達にとって極めて重要な時期。この時期の保育の在り方は、その後の成長や社会性の獲得にも大きな影響を与える
- ・社会情動的スキル（いわゆる非認知的能力）を乳幼児期に身に付けることが、大人になってからの生活に大きな差を生じさせるといった研究結果などから、乳幼児期、とりわけ3歳未満児の保育の重要性への認識が高まってきた

※乳幼児期にいかに関係が持てたかという事が、大人になった時に影響を与えるという事が分かっている→いかに乳児期の保育は大切かが分かる

◎保育の計画及び評価

- ・指導計画の作成、子ども一人ひとりの旬を捉え、考えて計画をたてる
- ・乳児期、保育士と過ごす時間は限りなく長い
活動と休息（ほっこり安心する時間）、緊張感と開放感の調和を図る
- ・乳児保育を考えるときは、保護者にも思いをめぐらせる
お迎え時の保護者と一日を保育園で過ごした子どもは少なくとも疲れている
お迎え時や連絡帳でどんなことを伝えていきますか？
伝える内容によって、保護者は批判されているように感じる事もある
→子どもの育っている様子（今日の姿）を保護者が喜ぶようなことを伝え共有する

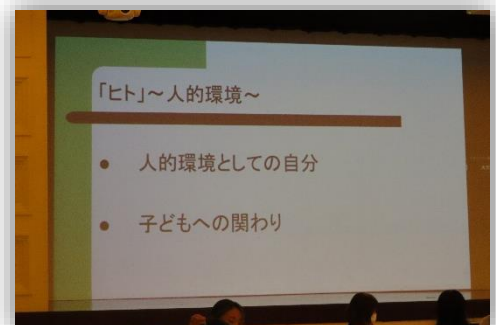
◎環境を通して

- ・保育実践を振り返りましょう
昨日 今日 明日・・・保育実践を再考する

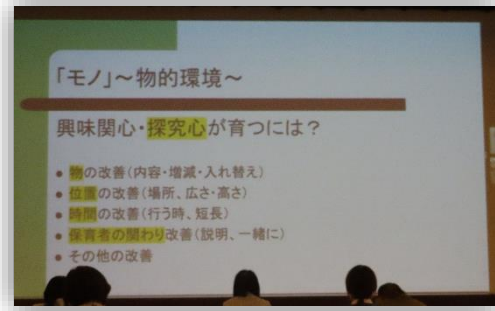
※一人ひとりの子どもが今日は何を楽しんでいるのか深掘りし、よく見て書こう

・「ヒト」～人的環境～

人的環境の「自分」は、人からどう見られているのか、時には振り返ることも大事である
自分の癖を知ることも大事（偏りが出てしまう）
人数の把握・・・今日は何人の子どもと過ごすという意識をすることが大事



- ・「モノ」～物的環境～
 - 興味関心・探求心が育つには？
 - ワンパターンでは困る
 - 育ちによって種類や中身を変える



◎乳児保育に関わるねらい及び内容

感覚（五感）から育つ

身体的発達、社会的発達、精神的発達に関する視点

いろいろな育ちがあり、色々な力を身につけていく

すべては『子どもの最善の利益』

子どもの生命が守られ保健的で安全な環境の中での生活が保障されること

その生活の中で子どもの欲求や願いが受け止められ、よりよい方向に成長・発達が

促されること

◎保育の可視化、子どもの学びの可視化

写真、ドキュメンテーション、ポートフォリオ等 後から振り返ることが出来る

◎グループワーク

- ・子どもの育ちについて
- ・保護者対応で工夫している事
- ・自分の癖を知る
 - (園児の名前を書いてみよう。どんな順番で書く?)
- ・連絡帳の書き方
 - (保護者にどんなことを伝えているか?)
- ・感覚遊びについて



感想

乳児期が心身の発達にとって重要な時期であるということ、そして、その大切な時期の長い時間を私たち保育士と共に過ごしており、保育士がいかに子どもの育ちに影響を与えているかという事を学ぶ。また、子どもだけでなく保護者に対しても思いを巡らせ対応することが大切であり、ほっこり安心できる場でありたいと感じる。

先生から頂いた言葉のように保育士という仕事に誇りを持ち、子どもの育ちに寄り添っていきたいと思う。

(文責：鳥栖市立保育所鳥栖いづみ園 瓜生田悦子)